



【別紙2】

## 内藤コンファレンス概要

内藤コンファレンスは、自然科学の基礎的研究の振興を目的に、1991年度より開催されている国際学術会議であり、本年度に至るまで50回の開催実績があります。

本コンファレンスは、3泊4日の合宿形式で行われるクローズドの国際学術会議で、年2回、特定のテーマをもとに開催されます。選定されたテーマを牽引する本邦の代表的な研究者5名によって組織委員会が編成され、企画運営されています。参加者は、世界各国から招いたテーマ領域の第一線の研究者（約25名）と、公募の中から選考されたポスター発表者（約60名）によって構成されます。コンファレンス開催中には、テーマ領域の最新研究成果報告のみならず、非公式なディスカッションや意見交換の時間が充実しており、研究者間の国際的なネットワーク形成をめざしています。

コンファレンスの構成は、おおよそ次のようになっております。

第一日 午後 レジストレーション、プレナリー講演、レセプション

第二日 午前、午後 招待講演者による口頭発表（10名）、夕刻 ポスター発表（30題）

第三日 午前、午後 招待講演者による口頭発表（10名）、夕刻 ポスター発表（30題）

第四日 午前 招待講演者により口頭発表（5名）、午後 解散

また、コンファレンス会期内に発表されたポスターの中から、特に優秀な発表者数名に、内藤コンファレンス優秀ポスター賞を顕彰し、若手研究者の育成と自然科学の基礎的研究の振興に貢献しております。



【別紙2】

## 内藤コンファレンスの開催履歴

※表中敬称略

回数	開催期	テーマ	講演者	ポスター 発表者	組織委員長
第1回	1991年10月	細胞における蛋白質移行	20名	51名	水島 昭二
第2回	1992年10月	細胞における蛋白質移行 [II]	21名	50名	大村 恒雄
第3回	1993年11月	細胞における蛋白質移行 [III]	22名	61名	水島 昭二
第4回	1994年11月	神経・免疫・内分泌ネットワーク	27名	60名	堀 哲郎
第5回	1995年10月	神経・免疫・内分泌ネットワーク [II]	25名	53名	田平 武
第6回	1995年11月	形態形成プログラム：多細胞生物のパターン形成	27名	57名	江口 吾朗
第7回	1996年9月	糖脂質・スフィンゴ脂質の構造と機能	54名	60名	永井 克孝
第8回	1996年10月	神経・免疫・内分泌ネットワーク [III]	25名	60名	中尾 一和
第9回	1997年10月	海洋生物活性物質：構造と活性の多様性	25名	58名	北川 勲
第10回	1998年10月	難病の分子生物学	25名	60名	金澤 一郎
第11回	1999年10月	構造ゲノム科学：創薬への新しい道	21名	57名	京極 好正
第12回	1999年10月	植物生活環制御の分子機構	26名	74名	高橋 信孝
第13回	2000年11月	難病の分子生物学 [II]	25名	48名	金澤 一郎
第14回	2001年10月	昆虫生物活性物質とその活性発現の分子機構	25名	59名	鈴木 昭憲
第15回	2002年10月	難病の分子生物学 [III]	24名	48名	金澤 一郎
第16回	2003年10月	自然免疫の医学・生物学 [I]	25名	59名	審良 静男
第17回	2004年11月	幹細胞の維持と分化の分子基盤 [I]	26名	64名	浅島 誠
第18回	2005年10月	自然免疫の医学・生物学 [II]	26名	38名	三宅 健介
第19回	2006年11月	幹細胞の維持と分化の分子基盤 [II]	24名	62名	阿形 清和
第20回	2007年10月	自然免疫の医学・生物学 [III]	25名	60名	稲葉 カヨ
第21回	2008年6月	細胞核ダイナミクスとRNA [I]	25名	64名	加藤 茂明
第22回	2008年9月	ケミカルバイオロジー [I]-天然物化学からの展開-	25名	61名	磯部 稔
第23回	2008年11月	幹細胞の維持と分化の分子基盤 [III]	24名	63名	岡野 栄之
第24回	2009年6月	細胞核ダイナミクスとRNA [II]	26名	60名	石井 俊輔
第25回	2009年9月	ケミカルバイオロジー [II]-天然物化学からの展開-	24名	59名	長田 裕之
第26回	2009年11月	オステオバイオロジー	25名	49名	松本 俊夫
第27回	2010年6月	生体膜ダイナミクスと脂質生物学 [I]	26名	60名	五十嵐 靖之



回数	開催期	テーマ	講演者	ポスター 発表者	組織委員長
第28回	2010年7月	糖鎖の発現と制御 [I]-機能から病態まで-	27名	60名	谷口 直之
第29回	2010年10月	グリアワールドから見た脳	27名	60名	高坂 新一
第30回	2011年6月	生体膜ダイナミクスと脂質生物学 [II]-脂 質ドメイン、脂肪滴、疾患	26名	60名	平林 義雄
第31回	2011年9月	糖鎖の発現と制御 [II]-代謝物、ストレス 応答、マイクロドメインと展望-	25名	60名	鈴木 明身
第32回	2011年10月	こころの機能と疾患の分子機構	25名	58名	西川 徹
第33回	2012年6月	酸素生物学：酸素濃度に対する生物応答 とその制御破綻による疾患	26名	58名	山本 雅之
第34回	2012年10月	感染・炎症・免疫	27名	60名	笹川 千尋
第35回	2013年7月	ユビキチン-プロテアソームシステム： メカニズムから病態まで	26名	59名	田中 啓二
第36回	2013年9月	分子からみたエネルギーバランスと摂食 行動の制御	26名	59名	上田 陽一
第37回	2014年7月	バイオイメーキングがめざすもの	28名	59名	審良 静男
第38回	2014年10月	生物システムの物質的基盤	27名	60名	福田 裕穂
第39回	2015年7月	有機分子触媒の化学	27名	59名	丸岡 啓二
第40回	2015年9月	エピジェネティクス-ヒストンコードから 治療戦略へ	28名	58名	吉田 稔
第41回	2016年7月	がんの多様性・可塑性と治療抵抗性	26名	60名	野田 哲生
第42回	2016年10月	生命科学に革命をもたらす最先端構造生 物学	26名	59名	嶋田 一夫
第43回	2017年7月	非コードRNA：生物学、化学、そして疾 患	28名	60名	塩見美喜子
第44回	2017年10月	意思決定の脳科学—動機、予測と学習	26名	54名	銅谷 賢治
第45回	2018年7月	がん免疫療法の免疫分子基盤 —次世代のがん免疫療法をめざして	27名	54名	松島 綱治
第46回	2018年10月	生物進化の仕組みと多様性	29名	59名	長谷川 眞理子
第47回	2019年7月	C-H 結合の活性化と変換	27名	56名	茶谷 直人
第48回	2019年10月	感覚系サイエンスの最前線 — 痛覚、痒 覚、嗅覚、味覚	23名	59名	井上 和秀
第49回	2023年7月	微小管・分子モーター研究の最前線—分子 構造から細胞機能、個体・疾患まで	26名	56名	岡田 康志
第50回	2023年10月	グリア細胞が先導する脳機能制御	26名	57名	岡部 繁男



開催予定の内藤コンファレンス

回数	開催予定	テーマ	顧問	組織委員長
第 51 回	2024 年 6 月	マイクロバイオームの健康・医療への応用	笹川 千尋	竹田 潔
第 52 回	2024 年 10 月	物理的・機械的視点が拓く生物学	藤吉 好則	森 泰生
第 53 回	2025 年 7 月	生殖細胞学：有限な命の永続性をひも解く	阿形 清和	林 克彦
第 54 回	2025 年 10 月	ゲノム編集と生命科学（仮題）	浅島 誠	濡木 理
第 55 回	2026 年 7 月	生命機能を司る分子の変換化学—生命を化学で理解する—（仮題）	柴崎 正勝	濱地 格
第 56 回	2026 年 10 月	免疫代謝：過栄養・代謝ストレス・慢性炎症・抗腫瘍免疫の新機軸の解明（仮題）	笹川 千尋	熊ノ郷 淳